



メロン、丸い形は地球に見える?メロンのようにおいしく、その表面の網目のように
緻密なネットワークを広げる月刊情報誌をめざします!

巻頭	コムカフェの7年間を振り返る(報告) …… 1	カレンダー	2021年5月の comm cafe ランチカレンダー …… 5
紹介	ペルーの貧しい学校への教育支援(CALO) …… 2	お知らせ	協会・他団体からのお知らせ …… 6
紹介	退職職員紹介 協会での思い出 …… 4	編集後記	…… 8



コムカフェの7年間を振り返る

3月20日開催 @ comm cafe

カフェ事業の始まりは2010年。2013年5月に多文化交流センターがオープンする3年前までさかのぼる。この3月で、これまで約7年間、カフェを担当してきた金姫廷まきひしよんさんが退職することもあり(4P参照)、これまでの過程を知り、今後のあり方をともに考えるイベントを開催したので報告する。

【コムカフェのもつ多彩な側面】

コムカフェは火曜日から土曜日まで「ワンディシェフ・システム」のもと、これまで40カ国80名の外国人シェフが1日オーナーになり、のべ80名にのぼるボランティアの協力を得ながら世界の家庭料理を提供してきた。今ではランチ営業は広く知られるようになってきたが、今回スタッフが一番伝えなかったのは、お客さんからは普段見えない「コムカフェのもつ(飲食業以外の)4つのはたらき」についてだ。

- ①人材育成(外国人市民をエンパワメントし、主体性を引き出す機能)
- ②コミュニティづくり(「食」や「語学」をキーワードに、さまざまなグループを生み出す機能)
- ③啓発(メディアからの取材依頼や講演依頼が多数寄せられ、独自のノウハウや実践のポイントを多方面に発信する機能)

④相談窓口、「フードドライブ」などセーフティネットとしての役割(キッチンでの作業中や賄いの時間に悩みや不安を様々な国籍・世代のスタッフに相談できる機能)

後半の「一問一答タイム」では活発なやり取りが続き、それぞれ自分の言葉でカフェに対する思いを語った。「すごく効率の悪いことをやっているようにみえて、実は確実に『共生』の実践のためのノウハウを蓄積させているのが面白い」(初めてカフェに来た方)、「このカフェでなら、母語で大きな声で話しても誰も私を見ない。自分たち親子にとって、素のままですら、本当に貴重な場」(常連のお客さん)、「最初はこのカフェでおこなわれていることの意味がよくわからず、もやもやすることが多かったけど、だんだんそのことに慣れて、いまではこの場にとっても親しみを感じている」(ボランティア)。



【カフェを通して、変わったこと】

最後は約7年カフェを担当してきた金姫廷さんがスピーチ。「このカフェを通して本当に沢山の出会いを得て、自分自身も随分変わった。これまで地域で生活する中で、夫の通名(日本式の名前)を名乗るか、本

発行・差出人:公益財団法人箕面市国際交流協会(MAFGA)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36 箕面市立多文化交流センター内

Tel: 072-727-6912 Fax: 072-727-6920 E-mail: info@mafga.or.jp HP: www.mafga.or.jp

賛助会員数: 330名 法人会員数: 30団体 (2021年4月16日現在)



▲ 金姫廷さん

名にするか、悩みながらもその場その場で使い分けてきた。でもこのカフェで働くことで、自分も堂々と本名を名乗ることが出来た」。7年間、現場で運営を担ってきた中で言葉に、じんときた人が多くいた。

長年、カフェを支えてくれた「チーム・シカモ（コムカフェの運営をサポートしている外国人市民グループ）」のタナヤさん、アルバイトのオリガさんも、3月末で大阪を離れるのであいさつした。タナヤさん曰く、「最初は何をやるのも緊張して恥ずかしがり屋だった私、このカフェを通じてとても積極的になった。イベント企画やマルシェ、出講など、やりたいと思ったことをここですべて実現できたことはまるで奇跡」。

【まだまだ道のりは続く】

コムカフェへ来てくれるお客さん、シェフ、ボランティア、スタッフ、多様な事業関係者…。支援する側、される側（＝多数派と少数派の関係性）が時に入れ替わり、互いの線引きがあいまいになることも、この場が放つ不思議な磁力となっている。

今年度からは新しいスタッフ2人（エネビシさん、

金梨花さん）が加わり、新たなメンバーで次の展開を模索中。日替わりランチの営業だけにとどまらず、もっといろいろな人がこのカフェに関わり、いかに多角的な展開を生み出せるのか、次なるチャレンジだ。

毎日多様な立場の人たちが関わる性質上、それぞれ思い通りにならないことが本当に多く、時にしんどくなることも。参考になる事例が他にないかとあちこち調べたが、コムカフェみたいな場所は世界のどこにもない、ということもわかってきた。

コロナや気候変動などで社会の状況が大きく変わる中、多様な人たちがともにはたらき、苦労を共有しながら、いかに豊かな地域を築いていけるか。未来を先取りしたようなこのカフェの求心力や可能性を、改めて感じた会だった。カフェはこの5月で丸8年。GW明けまでは、テイクアウトのみの営業を行う予定だったが、緊急事態宣言の発出で、5月11日までは閉店が決まっている。閑散とした店内が寂しいが、しばらくは参加者の皆さんから寄せられたメッセージや、当日のスライド資料を掲示しているの

で、センター再開後は、ぜひのぞいて見てほしい。

(岩城)



ペルーの貧しい学校への教育支援 ～大阪ラテンアメリカの会 (CALO)～

南米ペルーの学校にスペイン語に翻訳した算数ドリルと中古絵本を20年以上にわたって贈り続けているNGOが箕面にある。「大阪ラテンアメリカの会」、略称CALOである。梶田雅子代表、オチャンテ・ロサ副代表からお話を聞いた。



📖 四半世紀にわたって活動を続けてきたが、今回コロナのため初めて算数ドリルを贈れなかったという。これまで算数ドリルは24年間年約4,000冊、絵本は20年間年約80冊贈ってきた。贈り先は首都リマ近郊の生活困難地域にある小学校。これまでドリルを手にした子らは約52,000名、うち約7,000名が小学校の6年間フルにドリルを利用した。

ペルーは一人当たりのGDPが日本の1/5以下。コロナの感染防止で大事な手洗いをしたくとも、清潔な水が手に入らない人が人口の2割もいるという。小学校では教科書は最近まで4年間使い回ししていた。コロナでオンライン授業が行われているがパソコンがなく、スマホを利用している子が多いという。

教育は国の将来を左右する。このような教育環境にあ

る子らに、「考える力」を養う算数の本、「心の糧」となる絵本を贈る活動は、まさに将来への種まきとなる支援活動として評価されるべきと思う。

📖 CALOの誕生と算数ドリル・絵本プロジェクトの経緯

CALOを立ち上げたのは現代表の梶田雅子さん。梶田さんはホームビジットで交流する中南米系留学生と話ができるように、50歳で大学に社会人入学し、スペイン語を学び始めた。そして中南米系留学生との交流のためのNGO「CALO」を1994年3月、友人らと立ち上げた。どういう交流をするか話し合いで決まったのが算数ドリルを翻訳してペルーに送る事業。きっかけはペルーの留学生の「日本の算数ドリルをスペイン語に翻訳してペルーの子に使わせたい」という呟き。

CALO を立ち上げて1年後、1995年5月、1年生用ドリルの翻訳版4,000冊を持って梶田さんらはリマを訪れた。当時、パソコンは出始めの頃。翻訳作業はパソコンの勉強から始まった。著作権交渉、翻訳、入力作業、ペルーの印刷屋の選定等の大変な作業を次々と迅速にこなした行動力には驚く。1996年には1～6年生用ドリル全ての翻訳が終わり、1997年3月外務省の「草の根無償資金協力」の助成金約400万円をもらった。

算数ドリルを直接子らに手渡すため、会員たちは何度もペルーの学校を訪れた。その時、教室にカラフルな絵本が見当たらないことに気づく。そして2000年から中古絵本の寄付を募り翻訳して子らに送るプロジェクトが始まった。

📖 算数ドリルや絵本で育っていく子どもたち

算数ドリルは副教材として、学校だけでなく自宅でも使うなど、子らは各々自分なりに活用している。卒業生たちは「国の教科書より、ドリルの方が絵やグラフの説明があって分かり易く、自分で問題を解くことができ、算数が面白くなった」、「暇な時に算数ドリルを開いて勉強するのはおもちゃで遊ぶ時のように楽しかった」と言う。教科書と異なりドリルには自由に書き込めるのも嬉しかったようだ。「おかげで過去3年連続で算数の学力が最も伸びた学校として表彰された」と校長から感謝されたこともあった。

絵本は教材としても使われている。会員が訪問した学校では授業で「バムとケロ」の絵本を読み、子らは分かち合うこと、やさしさ、友情等々を学んだと語り、高学年のクラスでは、被爆少女の12歳の死を描いた「おりづるの旅」を読み、戦争、平和について子らは語った。「おおきなかぶ」を児童劇にして演じた学校もあった。

ドリルや絵本で学んだ子らはどうなっているか。CALOの会報 Amigos には中学生、大学生になった彼らの姿が多く紹介されている。

首都リマにある名門の国立工科大学に入学した子らもかなりおり、兄弟で入学した子らも紹介されている。奨学金を得てフランスへ留学した子もいる。ドリルの影響が理系が多い。彼らは皆 CALO に感謝し、この支援が今後も続くことを望み、CALO に協力したいという子もいる。社会人となった彼らの紹介記事も見てみたい。

📖 活動資金

会員は正会員、賛助会員合わせて近年は60-70名という。会費の他、寄付集め、バザー参加、語学講座など、会員の努力で毎年100万円近い資金を25年間集め、ド

リル、絵本を贈ってきた。並大抵のことではない。毎年いくらお金が集まるか分からないので、年間計画は基本的に白紙という。

以下私見だが、草の根とは言え、国際的活動は日本の評判にも関わる、国にとっても大事な活動だ。「資金が足りなくて贈れない」で国としていいのか。国はこういう活動を支援する体制を整備すべきだ。我々市民も少額でも応援できたらいいと思う。CALOに限らず、市民のこういう活動を支援できる仕組みづくりが必要に思う。

📖 今後の CALO

副代表オチャンテ・ロサさんは15歳の時ペルーから来日した日系4世で、現在桃山学院教育大学の准教授。来日した時は日本語は全く知らなかったという。三重県の中学、定時制高校で学び、さらに大学、大学院で学んだ。自身の経験も含め、外国ルーツの子らが抱える様々な課題を研究しており、多くの論文を発表している。2014年度から CALO 副代表を務める。

スペイン語に翻訳した算数ドリル、絵本、そして現地小学校とのつながりが CALO の大きな財産である。今後はこれらを広く活かしていかねばならない。ドリルは日本でもスペイン語しか分からない子らの算数の勉強に使われてきた。ロサさんは、絵本も日本で母語(継承語)教育に役立つと語る。今回、コロナでオンライン会議も行ったが、今後は会員の利便性を考え、オンライン化、情報のデジタル化をもっと進めたいと話す。

ドリルは、先方の強い要望もあり長らく同じものを贈ってきた。梶田代表は、今回のストップを機に、現在のペルーの教育事情も踏まえ、ドリルは今ままでよいか検討したいと語る。今後の活動に大きく関わる案件だ。また、ロサさん始め若手のメンバーもそろってきているので次世代へのバトンタッチも課題という。今、CALO は新たな道を模索している。(荻野)



▲ 算数ドリル

📖 団体概要:

NGO 大阪ラテンアメリカの会 (CALO)
Club de Amigos de Latinoamerica de Osaka

南米ラテンアメリカの子どもたちの教育支援をはじめとし、国際支援、国際交流、災害支援などを行う NGO (市民活動・非政府組織) ボランティア団体

E-mail: calo@hcn.zaq.ne.jp

HP: <http://calo.whitecafe.jp/>



左から林さん、オチャンテ・ロサさん、吉富さん、梶田さん

退職職員紹介

2021年3月末で協会を巣立った3名から、協会での思い出を聞いた。(聞き手:末原)



きむひょん
金姫延

2年間の韓国・朝鮮語の相談員としての関わりの後、職員として2014年からコムカフェの担当となりました。カフェでの仕事は、体力的にはしんどいけれど、いろいろな文化背景の方とコミュニケーションが取れて学びの多い場でした。ランチ営業の後にシェフ、ボランティアと一緒に賄いを食べながら話した時間は生きた相談タイム。外国人シェフが日本で感じる違和感や悩みなどを吐き出すことのできる場所でした。

実は食べ物に対してどちらかというと保守的で、外食の時も味の予想がつくものを用意的に選ぶ私は、カフェで出会う予想外の味とおいしさに幾度となく驚かされました。一番印象的だったメニューは、ブラジル出身のイヴァニーさんの「フェイジョン」。韓国では「豆」というデザートイメージが強く、「ご飯にかけて食べるお豆料理」にまず驚き、やさしい味付けなのに病みつきになりました。

職員としてサポートする立場でしたが、カフェでの日々を通して、いろいろな国の人たちと巡り合い、自分自身が支えてもらっていたんだなと振り返っています。初めて週5日勤務を過ごせたのは家族の協力があったこそ。このことにも感謝したいです。

はじめて協会と出会ったのは10年以上前、「タッキー 816 みのおエフエム」のレポーターとして取材に来たときでした。その後、イベントのボランティアとしてゆるく関わることになりました。そのころは、ふらっと訪ねても、お茶を飲みながら職員の方と小一時間雑談をしていくくらい、のんびりした雰囲気だったことをおぼえています。当時は、豊川支所の2階に協会がありましたが、ある日ふらっと訪ねたときに、「新しくできる多文化交流センターを一緒に見に行こう!」と誘っていただき、数名の職員と開館前のセンターを訪問したことも。東生涯学習センターでの多民族フェスティバルがおこなわれていたとき、当日ボランティアに来た私に、「駐車場をよろしくね!」と説明なしのむちゃぶり...ということも(笑)。

その後、2015年6月に職員となり、主に箕面市内の小中学校に勤務するALT(外国語指導助手)の生活支援を担当し、早6年弱。どのような関わり方であっても、それを許してくれる協会の存在は自分にとって大きく、居心地の良い場所でした。きっと、私にとってだけではなく、そう感じている外国人市民や地域のかた、ボランティアやスタッフも多いと思います。箕面を離れてしまいましたが、またいつかふらっと立ち寄ったときに、あたたかく迎え入れてくれる場所であり続けてほしいです。



坂口ピーター

3月に大阪大学外国語学部(日本語専攻)を無事卒業しました。3年次に協会インターンに応募したのがきっかけで、協会との関わりが始まりました。昨年度は、木曜日と土曜日にコムカフェで働いていたので、覚えている方もいらっしゃるのでは。

協会と関わるまでの交友関係は同じ留学生や大学生という立場の人と限定的でしたが、いろいろな背景を持つ人との出会いを通して視野がぐんと広がったように思います。日本人たちを集団として捉えていて、みんな個性がないように感じていましたが、カフェのボランティアやお客さんと出会うことで、一人一人が見えてきました。そしてこの地域にはたくさんの外国人市民が住んでいることを、きっと協会との関わりがなければ知らずにはいたと思います。

今年4月からは川崎で新生活が始まります。「外国人にとって日本は『外国』だから、どこに住んでも同じなんじゃないの?」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。5年間、箕面で育んだ人間関係はかけがえがなく、新たな生活に不安な気持ちでいっぱいです。

カフェのメニューとして、「ドラニキ」(ジャガイモのパンケーキ)は残りますので、是非、食べに来てください。



オリカ

(フォルハ ハリノヴィチ)



胃腸科 内科 外科 肛門科 リハビリテーション科

おざわクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土
am9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
pm1:00~3:00(胃カメ)	□	□	□	□	□	□
pm5:00~7:30	○	○	○	○	○	○

※診療開始 30分前から受付します。

■胃カメは予約制です。

■休診日: 土曜日午後・木曜日・日曜日・祝日

■http://ozawa-clinic.world.coocan.jp/

【住所】〒562-0023

箕面市粟生間谷西3-7-9 シャトー野間1F

阪急バス停留所「空の前」スーパーマルヤス向い

☑無料駐車場 有

TEL: 072-730-0721



エスパー

能勢

espero nase

フェアトレード雑貨と古民家カフェ

豊能郡能勢町地黄 476

営業時間: 金~月 11:00 ~ 17:00

http://espero-osaka.com/

箕面市国際交流協会の 多言語による生活相談窓口

電話 072-727-6912
(日本語・英語)

メール soudan@mafga.or.jp

子育てや教育、仕事、医療、福祉、在留資格など、生活での悩みや困りごとに対応します。秘密厳守。相談は無料です。

日時: 火曜日から日曜日 9:00~17:00

受付方法: 来館、メール、電話

対応言語: 日本語、韓国・朝鮮語、

中国語、英語、ポルトガル語

場所: 箕面市立多文化交流センター

5月
May



comm cafe ランチカレンダー

コムカフェ

火～土
★朝カフェ… 09:30～11:30
★ランチタイム… 11:30～14:00
売り切れ次第終了します
★午後カフェ… 14:00～17:00

日・祝日
★世界の朝ごはん (ドリンク付 660円)
…10:00～13:00 *ランチはありません
★ランチセット (ドリンク付 510円)
…09:30～15:00 *ランチはありません

ランチは 880円 (税込) です。

*ランチタイムのみプラス 100円でコーヒー・紅茶・ジュース・季節のドリンクがつけます。

●ご予約 (comm cafe 直通) 072-734-6255

☒… スナック or スウィーツの日 ☑… カフェで開催するイベント

各種イベントの詳細は「めろん」P 6・7をご覧ください。

comm cafe からお知らせ

平日もモーニングははじめました! 9:30am～11:00am L.O.

◆トーストセット 510円◆

手作り食パン、ブルガリアのアプリコットジャム、ギリシャヨーグルト、ゆで卵
NZ産バター、ドリンク(コーヒー、紅茶、ジュースのいずれか)つき

げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どうようび	にちようび
					1	2
★5月29日は、キューバ出身の留学生フランクリンさんによる チャレンジカフェ。お楽しみに!						コムカフェはおやすみします。
3 [祝日]	4 [祝日]	5 [祝日]	6	7	8	9
緊急事態宣言発出に伴い、5/11までコムカフェはおやすみします。						
10	11	12 李さん 《《コリア》》	13 ノックさん 《《タイ》》	14 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	15 アブドゥさん 《《セネガル》》 ☑ 18:00～20:00 みのお cinema 「都市を耕す エディブルシティ」	16 持ち込み企画のため ★カフェをご利用できる時間 15:30～17:00 ☑ 9:30～15:00 みのおわいわいクラス 「野草の天ぷらやくん製を食べる」
コムカフェはおやすみします。						
17 休館日	18 コフさん 《《タイ》》	19 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	20 アイリンさん 《《イラン》》	21 洪さん 《《コリア》》	22 ティさん 《《ベトナム》》	23 ランチセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん 《《ベラルーシ》》 10:00～13:00
24 休館日	25 協会主催事業のため ランチはお休みです。 ★カフェは 15:00 から利用できます。	26 李さん 《《コリア》》	27 ズィアさん 《《ニュージーランド》》	28 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	29 チャレンジ カフェ フランクリンさん 《《キューバ》》	30 ランチセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん 《《トルコ》》 10:00～13:00 ☑ 14:00～15:30 コロナ時代に心がけたい 衛生管理
31 休館日						

★新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため変更になる場合があります。最新情報は、Facebook を確認ください。

- ベジタリアン、ハラル、アレルギー対応については、カフェのスタッフまでお気軽にお尋ねください。
- メニューやシェフは変わることもあります。また急きょ、協会主催事業により貸切になることもあります。
- 詳細は、Facebook をご覧ください。https://www.facebook.com/mafgachallengecafe



国際交流協会 (MAFGA) からのお知らせ

下記についての問合せ・申込みは (公財) 箕面市国際交流協会まで
 ※開催場所: 箕面市立多文化交流センター

電話: **072-727-6912** FAX: **072-727-6920** E-mail: **info@mafga.or.jp**

定例イベント	読書会 5/9 (日) 10:30 ~ 12:00	多文化共生理解のための読書会 「わたしもじたいのいちぶです 川崎桜本・ハルモニたちがつづった生活史」を読む。 本を読んで集まり、感じたこと、考えたことを話しましょう。	定員: 10名 (要申込み) 場所: オンライン 参加費: 無料
	上映会 5/15 (土) 18:30 ~ 20:00	みのお cinema 上映会 毎月1本、視点を豊かにする映画を上映 【上映作品】 都市を耕す〜エディブルシティ〜 監督 アンドリュウ・ハッセ / 2014年 / 56分 / 米国 経済格差の広がる社会状況を背景に、新鮮で安全な食を入手するのが困難な都市で、市民自らが健康で栄養価の高い食べ物を手に入れるシステムを取り戻そうとさまざまな活動が生まれて行く。	定員: 10名 (要申込み)  場所: comm cafe 参加費: 一般 700円 賛助会員・大学生 500円 高校生以下 無料
	読書会 5/16 (日) 14:00 ~ 16:00	Sunday Book Review 英語の原書を一緒に読みましょう! 読む本: The Remains of the Day / 日の名残り 著者: Kazuo Ishiguro / カズオ イシグロ	場所: ボランティア活動室 参加費: 300円 + ドリンク代 申込み: 初参加の場合要申込
	セミナー 5/15 (土) 13:30 ~ 16:00	春の多文化ボランティアセミナー 13:30-14:00 国際交流協会の紹介 ◎講師: 公益財団法人箕面市国際交流協会 職員 14:00-16:00 あらためて考える「ともにいきる」 ~社会のあり方とわたしの立ち位置から~ ◎講師: 栗本敦子 (Facilitator's LABO くえふらぼ)	定員: 40名 (要申込み) 場所: 講座室 参加費: 550円 / 日 賛助会員: 無料
5/29 (土) 14:00 ~ 17:00	14:00-16:00 そもそも「ハーフ」って呼び方ってどうなの? ~多文化共生とレイシズムを考える~ ◎講師: ケイン樹里安 (社会学者・都市文化研究センター研究員) 16:00-17:00 ボランティア活動紹介 ◎ボランティア団体が活動の紹介を行います。	申込はこちらから  	
トーク 5/30 (日) 14:00 ~ 15:30	コロナ時代に心がけたい衛生管理 ~ comm cafe の事例と専門家から学ぶ ~ 長引くコロナ禍で多くの人を抱える不安とどう向き合えばよいか。コムカフェの現場で見た多様な衛生概念の事例について専門家と話す。◎梅村さとし (内科医)、トルガー・エネビシ (協会職員)	定員: 20名 (要申込)  場所: comm cafe 参加費: 無料 (ワンドリンク制)	

大切な
お知らせ

緊急事態宣言の発出に伴い、5月11日まで多文化交流センターは閉館しています。
 イベントの内容が変更、延期、または中止になる可能性があります。
 最新情報は協会 HP を確認ください。 www.mafga.or.jp

唐木幸子バレエスタジオ ~箕面の地で40年の歴史~

*バレエコース: 「ロシア国立ペルミバレエ学校日本校」のバレエ教授法取得証明書(Dipolma)や、日本徒手療法師会より「徒手療法師」の資格認定を与えられた姿勢調整師でもある指導者が、丁寧に分かりやすく指導致します。「バレエは芸術」として長く続けられるように、また中高生には学業と両立できるよう配慮しています。3才~80才位の年齢層まで、目的に合わせて気軽に楽しく始められます。

*健康コース: 徒手療法師の資格を持ったバレエ指導者(姿勢科学士)が健康維持を目的とした姿勢調整を致します。

〒562-0041 箕面市桜4-1-24 阪急牧落駅西側右斜め前 (駅より30M)
 072-721-6300 / 721-2576 <http://www.karaki-sachiko-ballet.com/>

(公社) 日本バレエ協会会員・AODT会員



他団体からのお知らせ

問合せ・申込みはそれぞれの各団体へお願いします。

緊急事態宣言の発出に伴い、
イベントの内容が変更、延期、または中止になる可能性があります。

<p>講演会</p> <p>5/9 (日) 13:00 ~ 16:00</p>	<p>対話と共生 vol.5 マジョリティの特権を可視化する ～わたしたちはどこに立ち「共生」について語るのか～</p> <p>第一部 13:00 ~ ◎講演 出口真紀子 上智大学外国語学部教授 (定員 100名)</p> <p>第二部 14:45 ~ 講師との対話 (定員 30名)</p> 	<p>場所：オンライン (Zoom) 参加費：無料 主催・申込・問合せ：対話と共生推進ネットワーク dialogueandkyosei@gmail.com 後援：大阪大学大学院人間科学研究所千葉泉研究室</p>
<p>子ども</p> <p>5/15 (土) 14:00 ~ 16:00</p>	<p>KOGUMA 教室～子どもたちと、グローバルに、まなぶ～</p> <p>小学生4～6年生を対象とした、多文化理解プログラム。 世界のことばや文化を学んでみませんか～韓国語編～ ①自己紹介&数字を覚えよう! ②韓国のすごろく体験</p>	<p>場所：コリア国際学園 (茨木市豊川2-13-35) 参加費：500円 主催・申込：NPO法人Glocal NET wonjin@npoglobal.net</p>
<p>持ち込み企画</p> <p>5/16 (日) 9:30 ~ 15:00</p>	<p>みのおわいわいクラブ～野草の天ぷらやくん製を食べる</p> <p>箕面の山中に自生する、野草について学んでみませんか。 天ぷらや、くん製をつくって、野草を研究する。 ◎講師 谷垣文貴子 (野草の天ぷら研究室) ◎講師 江崎記見 (くんせい料理研究家)</p>	<p>場所：comm cafe 参加費：1,000円 定員：20名 主催・申込： みのおわいわいクラブ 080-3773-0906</p> 
<p>オンライン</p> <p>5/30 (日) 10:00 ~ 12:30</p>	<p>第79回教育カフェマラソン～100回つづける対話マラソン～</p> <p>「対話の文化を育もう」そしてその先にある「子どもたちを豊かに育むことができる社会を創っていこう」という想いで2012年にスタート。「教育」の枠を超えた、さまざまなテーマで対話する。 ◎話題提供者 永崎裕麻「旅・教育・自由・幸せ」を人生のキーワードとして生きる旅幸家</p>	<p>場所：オンライン (Zoom) 参加費：700円 (下記QRから) 主催・申込：NPO法人コクレオの森</p>  
<p>上映会</p> <p>6/12 (土) ① 10時～ ② 14時～</p>	<p>PRISON CIRCLE プリズン・サークル</p> <p>受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り更生を促す、TC (Therapeutic Community=回復共同体) というプログラムを導入した官民協働の刑務所「島根あさひ社会復帰促進センター」を追ったドキュメンタリー映画を上映。 ◎監督坂上香 / 2019年 / 136分 / 日本 / 配給東風</p>	<p>場所：人権平和センター豊中 (豊中市岡町北3-13-7) 参加費：無料 定員：100名 (要申込) 主催・申込： (一財)とよなか人権文化まちづくり協会 TEL: 06-6841-5300</p>
<p>公演</p> <p>6/18 (金) ～ 20 (日)</p>	<p>劇団態変第72回公演 心と地～さ迷える愛・急～</p> <p>身体障がい者にしかできない身体表現を追求する「劇団態変」の定期公演会。*公演後、アフタートークあり。ゲストは下記 6月18日 (金) 19:30 ~ * 藤原辰史 (農学者) × 金満里 6月19日 (土) 14:00 ~ * 戸田ひかる (映画監督) × 金満里 18:30 ~ * 鉄秀 (アーティスト) × 金満里 6月20日 (日) 13:00 ~</p>	<p>場所：アイホール (伊丹市立演劇ホール) (伊丹市伊丹2-4-1) 参加費：前売 一般 3,500円他 当日：4,000円 主催：劇団態変 チケット販売： 5/17 ~</p> 

coupe de Minami スクール coupe de MINAMI 南プロカッティング研究所

町屋で楽しく洋服をつくってみませんか?




ボディに布を直接
のせて服をつくって
みましょう!
(立体裁断)

南正枝 プロフィール (略歴)

昭和42～45年 フランス・パリの洋裁学校にて立体裁断、デザイン等を修得

昭和45～47年 カネボウ Christian Dior アトリエでデザイナー

昭和47年以降 大学および専門学校での講師経験多数

◆リフォームや服のお仕立てもいたします! ◆パターンや立体裁断も教えます。◆詳細はホームページあるいは下記まで直接お電話ください!

●問合せ : 〒562-0012 箕面市白鳥2-2-30 電話 / FAX 072 (721) 4151
E-mail info@coupe-de-minami.com URL http://www.coupe-de-minami.com

めろん編集ボランティアスタッフ 募集中!

「めろん」は箕面市国際交流協会と協会ボランティアが協働し、地域の多様性を高める情報をみなさんにお届けしています。取材に行ったり、記事を書いたり、誌面をいっしょに作るボランティアを募集しています。イベントやセミナーの企画や勉強会なども行います。多文化共生に関心のある方、ぜひご参加ください!! 会議の日程は変更になる場合がありますので、参加される際は、事前に協会までお問合せください。

めろんの広報にご協力ください!

「めろん」をより多くの方に知ってもらうために、自治会やPTA、同窓会、研修、セミナーや授業など様々な催しで、地域から多文化共生を考えるためのツールとして配ってくださいますか。置いてくださるお店なども大歓迎! フォームから必要事項を記入ください。



編 集 後 記

家にテレビがもう25年くらいないので、すっかり世間から浮世離れしている。20年も前から唯一の私の情報源だった新聞や雑誌は図書館で読んできた。そんな情報収集方法も時代とともにインターネットへと移った。オリンピックが日本に、東京に来ると叫ばれてからも個人的に全く関心なかった。

そんな折、職場で聖火リレーの話題がでて、そんなことが始まっているのかと遅ればせながら興味を持った。このコロナの中でどのような方式でリレーが行われているのかとの好奇心もあった。福島県で行われた映像を動画投稿サイトで見て愕然とした。先頭で走っているのは聖火リレー選手だとばかり思っていたところに、真っ先に出てきたのは某炭酸飲料メーカーだった。大量のアップビートの音楽とともに「楽しみましょー!」とのマイクからの空しい声が響く。次から次へと会社の山車が大音量を流しながら通っていく。私がいかに資本主義の世の中で生きているのかを痛感させられた動画だった。投稿者は結局ランナーを映してはいなかった。東日本大震災で被災した福島県。みんなが便利を、効率を求めた果てに生まれた原発。その福島から始まる資本主義たっぴりの聖火リレー。延期された東京オリンピックの開会式は2021年7月23日午後8時からだ。本当にみんなが楽しめるのか。私の心はもう決まっている。(鳥羽山)

アクセスマップ



オレンジゆずるバス

- (平日・土曜) 黄ルート「多文化交流センター前」または赤ルート「小野原南」から西へ約550m
 - (日曜・祝日) 緑ルート「小野原西五丁目」から西へ約200m
- ※「多文化交流センター前」には停まりません。

阪急バス

出 発	バス番号	最寄バス停
千里中央 北千里方面から	30, 55, 56 58, 59, 66	① 小野原 ② 小野原西
	175, 176	③ 小野原南
	70	④ 小野原西5丁目
	70, 78	⑤ 関西学院千里国際キャンパス
阪急石橋から J R茨木方面から	92	① 小野原 ② 小野原西

「めろん」編集スタッフ

【ボランティア】井嶋眞佐子、荻野克彦、崔聖子、山下三千世、結城なお、鷲尾則昭

【事務局】宇治野清隆、岩城あすか、河合大輔、末原真紀、中村由紀、鳥羽山良平

問合せ：(公財) 箕面市国際交流協会 〒562-0032 箕面市小野原西5-2-36 多文化交流センター

Tel : 072-727-6912 Fax : 072-727-6920 E-mail : info@mafga.or.jp

HP : www.mafga.or.jp FB : facebook.com/Mafga みのお多言語ポータル : http://portal.mafga.or.jp/